

令和 2 年 度 自 己 評 価 書

学校名	和歌山市立加太中学校
校長氏名	神崎信彦
作成日	令和3年2月16日

1 教育目標

高い知性、豊かな情操、強い意志のある生徒の育成

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	①県学習到達度調査で基本問題の正答数が市平均を上回る。 ②授業を工夫し、個に応じた指導を行っている。(生徒・教員90%以上)	①学校が楽しいと感じる。(生徒100%) ② 県教育委員会作成の道徳副読本「希望へのかけはし」の活用100% ③いじめの解消率100%	①朝ごはんを食べた(生徒100%) ②運動部活動加入率(60%以上)	①学校の様子がよく伝わった(保護者90%) ②合同避難訓練への地域の方々の参加者(100名以上)
重点目標【P】	①基本的生活習慣と学習規律を定着させる。 ②魅力ある授業を実施し、基礎基本の定着を図る。	①道徳、人権教育の充実を図る。 ②学校行事や体験学習を地域との連携を深め、充実させる。 ③いじめの未然防止、早期発見	①体力向上の推進 ②基本的生活習慣の確立 ③危機回避能力の育成	①家庭・地域との連携充実 ②幼小中の連携の推進 ③地域の資源活用の推進
取組の状況【D】	①新型コロナウイルス感染症拡大のための臨時休業が3、4、5月と3ヶ月間の長期に渡ったことから、学力の低下を防ぐために次の様な取り組みを実施いたしました。 (ア)休業中の課題の出し方を、自主的に取り組む気持ちを持たせるよう工夫しました。また、宿題提出日や家庭訪問を定期的に実施しました。 (イ)休業が長引いたため、全学年に於いて、オンライン授業を実施しました。 (ウ)授業が再開されてから、10月までの4ヶ月間は7限授業を実施し、不足している授業を補いました。 ②朝の読書タイムや放課後の補充学習も、10月から例年どおり実施できました。 ③英語科の教員が、(水)1限に6年生の英語の授業の支援に行くことにより、小学校からの系統的な授業の推進を図るのに役立っています。	①昨年度から、特別の教科「道徳」が始まり、昨年同様、授業数の確保、指導方法の充実に努めました。また、学期ごとに各学年の代表の教員が、研究授業を実施し、研究協議を行うことで、指導力を高めました。 ②いじめアンケートを各学期に実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めることができました。 ③奉仕活動(スポGOMI大会・加太海岸清掃活動・友ヶ島の清掃活動など)にも積極的に参加し、多くの事を学ぶことができました。また、大阪府立大学の友ヶ島の漂着海洋ゴミ分析を見学させてもらうことで、環境問題に関心を持つ生徒が増えました。	①「早寝、早起き、朝ごはん」を保健だより等で継続して指導できました。 ②小学校でいただく方式の給食が3年目となりました。コロナ対応のため、和室と家庭科室をお借りし、スムーズに実施できました。また、食育の充実を図ることができました。そして、給食の献立をホームページにて毎日写真入りで掲載し、保護者の皆さんにお知らせできました。 ③幼稚園・小学校・中学校・地域・関係機関と連携した総合的な津波・地震防災訓練を長年実施してきましたが、今年度は学校別の実施となり残念でした。 ④運動部活動(ソフトテニス部・ダンス部)への加入者が12名であることから、加入率60%以上の達成はできませんでした。 ⑤昼休憩の運動を推進するために、サッカーボールやバドミントン、野球道具の貸出や、卓球場を活用しました。	①学校ホームページ等で、学校の様子を積極的に発信しています。連日、100回以上の閲覧があり多くの方が見てくれています。(保護者の96%の方が生徒の活動の様子が伝わったと回答しています。) ②地域が主催するイベントや清掃活動等に積極的に参加し、帰属意識を高めることができました。 ③11月の学校開放月間の充実も図りましたが、コロナの関係で訪問者は例年より少数でした。 ④幼小中連携会議を毎学期実施し、情報交換を行いました。 ⑤地域の活性化に繋がるよう、映画・テレビドラマの撮影ロケ地として学校を活用しました。(8月に映画「Smile」を撮影)
（評価結果【C】）取組の成果と課題	①臨時休業による授業の遅れを、オンライン授業や7限授業により早期に回復できたことで、年度後半の学習にゆとりが生まれました。 ②授業の目標を明確にすることにより、一人一人が、自覚を持って学習に取り組むことができました。また生徒間での教え合い学習、学びの共同体としての活動も定着しつつあります。 ③さらに生徒が興味を持ち、主体的で楽しくわかる授業の工夫が必要である。 ④基礎基本の定着が図れるように、常に継続した取り組みが必要です。 ⑤3年生の全国学テは今年度中止となりましたが、配付された問題の回答状況は良好でした。1、2年生の県学テでもよく頑張っています。 ⑥個に応じた授業の実施についてのアンケート結果は、90%を超えることができます。	①朝の「読書タイム」を継続し、豊かな感性と考える力を育むことができました。 ②朝のあいさつ運動では地域の方々と気軽に挨拶を交わすことができます。また、日常も挨拶の習慣が身についています。 ③例年、職場体験活動にて貴重な経験をしていますが、今年度は中止となってしまう大変残念でした。 ④えび祭りや鯛祭りなどの地域の多くの行事が中止となってしまいましたが、浜清掃やスポGOMI大会、友ヶ島の清掃活動へ参加できたことは貴重な経験となりました。 ⑤学校が楽しいと感じる生徒の割合が、91%であったことから、100%を目指したいと思います。	①給食についての課題として、昼食場所が本校ではなく、隣接している加太小学校へ教員・生徒全員が移動するため時間がかかっています。昼休憩の時間が限られていることから、生徒が本来行うべき配膳等にあてる十分な時間がとれず、事前に教員が準備している状況です。 ②体力運動能力テストに関しては、生徒の個人差がありますが、全体的には平均的です。ただ、運動部活動に入っていない生徒の運動不足が課題です。	①生徒会が中心に行っている朝のあいさつ運動が1年間を通して実施できました。 ②今年度は機会が減りましたが、地域へのボランティア活動に参加ができています。 ③観光協会・漁協・東京大学地域ラボなどの地域の方々が積極的に学校行事に関わっていただけるので、学校行事や体験学習が充実しています。東京大学地域ラボ作成の冊子「小さな波紋」は、加太の貴重な資料として今後、教育活動に生かしたいと考えています。
改善方法【A】次年度に向けての	①新型コロナウイルス感染症拡大により、臨時休業になった場合でも速やかに全校生徒がオンライン授業が開始できるように、常に準備をしておきます。 ②全国学力学習状況調査や県学習到達度調査の分析結果を参考に課題を明確にし、各教科担当を中心に学習の定着を図ります。 ③少人数学習の長所を生かし、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、魅力ある授業を行うことで、魅力ある学校にしたいと考えています。	①少人数であることを生かし、体験学習をより多く取り入れます。 ②幼稚園・小学校・地域・家庭と連携した市民性の育成に力を入れたと思います。 ③地域の伝統的・文化的行事(えび祭、鯛祭り)に積極的に参加し、さらに地域との連携を深めます。 ④加太地区内の事業所に今後もご支援を頂き、職場体験をより充実させたいと考えています。(但し、令和3年度も中止となっています。)	①全員給食が実施されて3年となり、定着しています。より一層、食育の充実に努めます。また、毎日の給食の献立の写真をホームページに掲載し、保護者などに見ていただけるよう情報の発信に努めます。 ②運動部活動に加入していない生徒の運動不足を改善するために、昼休憩に今以上に、体を動かす機会をつくります。	①学校行事がさらに充実できるよう、地域関係団体との連携を深めます。 ②地域防災教育の充実をはかります。 ③幼小中連携(合同の学校行事、授業参観、交流授業等)の充実をはかります。 ④各分野での出前授業(ゲストティーチャー)をより充実させます。 ⑤学校運営協議会を充実させ『コミュニティー・スクール』として地域と共にある学校をめざします。

3 その他の課題

- ① 少子高齢化に伴う生徒数の激減に対応し、少人数指導の短所を克服し、長所を生かした指導の研究に努めたい。
- ② 加太小学校・加太幼稚園・加太地区の方々との連携をより一層強めたい。
- ③ 加太小学校、加太中学校が『小規模特認校』となるよう現在和歌山市教育委員会で検討が行われていることから、より魅力ある学校をめざしたい。